年間第５主日　２月６日　分かち合い

ルカ 5-1～11

「不思議な漁」と名付けたくなる話ですが、見出しにはそうした言葉はありません。むしろ、最初の弟子が召されたときのことを語る話です。

シモンは夜通し働いて獲物がなく、むなしく力を使い果たしたと思ったとき、先生の声掛けを受けます。「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をしなさい」と。一晩中働いて何の収穫もなく、日が昇った今、また、網を降ろすとは、まったくばかげた話です。しかし、シモンは言います、「お言葉ですから、網を降ろしてみましょう」。そこには、皮肉も、投げやりの態度もありません、まさに、シモンの真心からの応答です。そして、思いがけない大漁です。

ある意味でその道のプロであるシモンが、まったくの素人であるイエスの言葉に従い、そしてその後の人生が決定づけられた話です。シモン・ペトロはイエスの足もとにひれ伏して言います、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです」と。恵みが働いて生まれ変わったのでしょうか。

人は神の大きな力に触れるとき、自らの罪深さを感じ、そのような恵みを受けるにふさわしくない者だという自覚が生じます。それこそが大きな恵みですが、そのような体験をしたものに、神はさらに大きな使命を与えます。「人間をとる漁師になる」という新たな使命です。そして、シモンは仲間とともに「すべてを捨ててイエスに従った」のです。(S.T.)